

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970300123
法人名	社会福祉法人 光風会
事業所名	グループホームひかり長屋
所在地	〒 404-0035 山梨県甲州市塩山西野原600番地 電話番号 055-333-8611

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年12月18日	評価確定日	平成20年2月4日

【情報提供票より】平成19年11月28日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12人	常勤	6人 非常勤 6人 常勤換算 3.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	0 階建ての 0 ~ 0 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(100,000円) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 1200 円			

(4) 利用者の概要 平成19年11月28日 現在

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.2歳	最低	75歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	塩山市民病院、高木歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年12月28日

広い敷地にゆったりと建てられた2ユニットのグループホームである。建物の中は天井が高く非常にゆったりとした造りで、大きな窓からは甲州市が一望できる素晴らしい眺めが広がる快適な空間である。運営者・管理者は、「尊厳と自立」という理念の下、利用者の生活歴を大切に、その人らしい生活ができるよう、職員一丸となったサービスを提供しようと熱意を持って取り組んでいる。敷地内には併設の特養とデイサービスがあり、併設の利点を活かして利用者が音楽療法を受けたり、大型車を借りてドライブに出かけたりしている。小学校や保育園との交流にも積極的で、小学校を訪れて子どもたちとふれあいを楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 利用者の尊厳を大切に言葉かけや支援ができるよう、職員全員の意識を高めるよう徹底した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で評価の内容について情報を共有している。自己評価・外部評価を通し、利用者の意に沿ったサービスができるよう職員全員の意思を統一している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所からの報告のみでなく、運営推進会議のメンバーでもある地域包括支援センターの所長による講義も行っていただいた。ホーム内に留まらず、他施設の見学や研修も行いたいと考えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入り口に意見箱が設置され、苦情申し立ての相談窓口もわかりやすく明記されている。面会時には、利用者の健康状態や暮らしぶりについて話をし、家族の要望を汲み取ることを大切にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の保育園や小学校の行事に積極的に参加している。地域住民との交流は散歩中の挨拶を交わすなどしている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームひかり長屋

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念が作り上げられている。事業所内の壁の要所要所にさりげなく理念が掲げられており、自然に理念が目に入っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や毎月の会議の際に、折に触れ理念について話しをし、確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育園や小学校の行事に積極的に参加している。地域住民との交流は散歩中の挨拶を交わすなどしているが、周囲に民家が少なく、地域との活発な交流は難しい。地域のかたがたのグループホームへの理解を深められるよう、働きかけたい。	○	地域の行事への参加や、地域の老人会との交流を検討し、さらに地域との交流を深めることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価の内容について情報を共有している。自己評価・外部評価を通し、利用者の意に沿ったサービスができるよう職員全員の意思を統一するようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回行っている。事業所からの報告のみでなく、運営推進会議のメンバーでもある地域包括支援センターの所長による講義なども行っていただいた。ホーム内に留まらず、他施設の見学や研修も行いたいと考えている。	○	さらに地域の方をメンバーに迎え、地域とのかかわりにつなげられるよう、期待したい。事業所の運営について、具体的なサービス向上につなげられるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの研修や甲州市の福祉施設連絡協議会に積極的に参加し、市町村との連携を図るようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回、利用料等の請求時に、長屋便りや金銭についての報告を同封している。健康状態等で必要な際には電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入り口に意見箱が設置され、苦情申し立ての相談窓口もわかりやすく明記されている。家族会は無いが、年に一度の納涼祭の時に、家族が集まる機会を設けている。面会時には、利用者の健康状態や暮らしぶりについて話をし、家族の要望を汲み取ることを大切にしている。	○	家族会を設けるなど、家族の意見をさらに運営に反映していけるような取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内での異動があるが、利用者のダメージが少ないよう徐々に馴染みの関係になっていけるようなかかわりをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が研修を受けられるようにしている。事業所内の研修にも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に参加し、事例発表なども行った。峡東地区の同業者とレクリエーションの機会をもち、交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始時には利用者の不安が少しでも軽減できるよう、言葉かけやかかわりに十分配慮している。サービス開始前に、数時間体験的に利用できるようにならないか、検討中である。	○	利用者が安心してサービスが受けられるよう、開始前の体験利用が可能になることを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の話の中で、勉強になることが多いと感じている。利用者から話題を提供してもらうことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話やかかわりの中で、利用者が望むことができるだけ把握するように努めている。困難な場合は家族からの情報を得ながら意向を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のサービスで気づいたことをメモ帳に細かく記し、職員間で共通理解を図っている。計画を立てる際にはそのメモ帳を活用するほか、毎月の会議で意見を出し合い、さらに家族の意見を反映させるなどして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回、全員についてモニタリングを行い、必要に応じて計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスを利用し、音楽療法に参加している。かかりつけ医の受診の送迎・付き添いも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ利用者の希望に沿ったかかりつけ医の受診支援を行っている。医療機関ともなじみの関係を築き、往診も行ってもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者及び家族の希望にできるだけ沿って方針を立てている。現在、当ホームでのターミナルケアを希望されている方がおり、家族、主治医、職員で話し合いを重ね、対応を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を損ねることのないよう、言葉遣いには十分配慮している。居室がわからなくなる利用者に対し、ランプを用いたさりげない工夫で目印を作るなど、利用者の誇りを大切にしたサービスを心がけている。個人情報の記載された記録等は利用者の目に触れないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者のペースに合わせて、柔軟に対応している。戸外に出る場合も止めるのではなく職員がさりげなく付き添い、見守るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週一回は創作料理といって、各ユニットごとに利用者と職員で話し合って好きな献立を考えている。庭で採れた野菜が食卓に上がることもある。片付けはできる利用者が率先して行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴していただいている。入浴を拒む利用者には無理強いをせず、様子を見ながら入浴を勧めるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道、茶道、契約農園での農作業など、各利用者の得意とする分野での楽しみごとを支援している。月に一回花屋さんを講師にフラワーアレンジメントも行っており、できた作品が居室に飾られて明るい雰囲気をかもし出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩は天気の良い日には毎日行っている。月一回の外出や、博物館の見学や遠方へのドライブなども行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外、鍵はかけていない。徘徊する利用者には見守りを大切にしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	様々な災害に対するマニュアルを作成して、年に1, 2回訓練を行っている。夜間の災害対策について、併設の事業所に協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士でもある職員が献立を立てている。利用者の状態に合わせて食事の形態を変え、食べやすいように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天井が高くゆとりのあるつくりになっており、ソファやこたつなど、利用者が好む場所でくつろげるようになっている。居室以外に、独りになりたい時に利用できるちょっとしたスペースもあり、随所に工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かみのある照明器具や障子などが使われ、温かい雰囲気である。ベッドや布団などの寝具は、利用者の好みに合わせたものを使用している。お仏壇やテーブルなど、利用者のなじみのものが持ち込まれ、利用者が居心地が良いように配慮されている。		